



島崎 紘一 議員

問 町史刊行の計画は

答 必要性を十分認識している

議員 所信表明において4項目の目標を掲げられた。この1年に限らず4年間具体的にどう取り組まれるのか。

町長 すぐにできることは29年度予算で対応した。中長期的には財政面での負担も考え実現できるかを考えていきたい。

議員 議員時代の自らの発言、提案された事の実現のために町

町長 林業の疲弊というか山の木をどうし

議員 13年間の議員時代に多くの一般質問をされている。そのいくつかを伺います。まず、※CLTを中心とした林業振興をどう取り組むか。

町長 林業の疲弊とい

ていくか大変な状況、その延長線上にCLTを目標に掲げてきた。国、県、町、全体で考えていかななくてはならないが、まず国からだと考えている。

議員 近隣町村との地域連携や町としての目的達成までの道筋は。

町長 西毛地域の首長間では研究会立ち上げの方向で検討中で、町では林政連絡会議の中で検討して進めたい。

議員 荒船風穴への道路改良、バイパス計画を述べられていたがどう取り組まれるのか。



世界遺産 荒船風穴

のか。

町長 文化庁とも相談、検討をして財政事情も含め考えていきたい。

議員 平成9年、10年にかけて取得した東第二団地、9543万円の資産が眠っている。どう活用するのか。

町長 土地開発公社がありますので十分考えているということでお願したい。

議員 土地開発公社の長も町長の兼務である。今後具体的な事を議会に提案してもらいたい。

次に29年度予算編成について特に留

意した点、町民にアピールした点、町長の方針は。

町長 まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき町の発展につながる事業を中心に効率的な予算配分を行い町民中心のまちづくりを目指して取り組むことです。

議員 町長公約は反映されているか。

町長 高齢者対策のタクシー券の拡充を行った。

議員 28年度地方創生推進交付金は県と上野村を含め16市町村、23事業が認定されたが町の対応は。

地域創生課長 2事業を申請したが採択されなかった。

議員 28年度補正の地方創生拠点整備交付金では南牧、神流町を含め6町村7事業が交付決定されたが。

地域創生課長 2案を

申請したが、いろいろ問題を指摘され条件を満たしていないということで断念した。

議員 国の方針、計画に沿っていない、検討の必要があるのではないか。

副町長 現在第2次募集に向けて鋭意資料作成をしている。気を引き締めてやっていきたい。

議員 町史編纂について、平成20年に予算化されたが、その後の経過については。

教育課長 当時編纂委員会を立ち上げることに出来ず現在に至っている。

議員 昭和46年に発行されて以来半世紀、町の歴史を後世に伝えるのが今の世代の責任と考えるが。

町長 大きな時代の変化があり町史刊行の必要性を十分認識している。

※CLT(クロス・ラミネイティド・ティンバー)

板の層を各層で互いに直交するように積層接着した厚型パネル。直交集成板